



シリーズ

TACという懸け橋

Vol.

6

「買ってくれる人」がいるからこそ、農業を続けることができる。生産者と手を携えながら、消費者とのさらなる結びつきを求め、日々奮闘するTACの姿を追う。

福岡県 JAにじ／JA全農ふくれん

新潟県 JA胎内市／JA全農にいがた

静岡県 JAとびあ浜松／静岡県JA営農センター

滋賀県 JA北びわこ／JA全農しが

愛媛県 JA西条／JA全農えひめ

宮城県 JAあさひな／JA全農みやぎ

岩手県 JA新しいわて／JA全農いわて



「曲がりねぎ」を手にする早坂克也生産組合長(右)とJAあさひな関根学④

1月下旬、生産組合は出荷のピークを迎え大忙し④

JAあさひな佐藤政悦組合長自ら店頭に立ち、「曲がりねぎ」をPRする④

大豆の代わりに「曲がりねぎ」

宮城県の伝統野菜「曲がりねぎ」。軟白部が大きく曲がる一風変わったこのネギを、集落営農組織「大衡(おおひら)作物生産組合」が作り始めたのには「わけ」がある。水田転作を一手に引き受け36haの大豆を栽培してきたが、作る農地が固定化し連作障害が出ていた。

「農閑期の冬場の収入源が欲しかったし、構成員が1人加わり労力も増えていた。いいタイミングで提案してもらった」と、生産組合長の早坂克也は話す。栽培を持ちかけたのは、TACとして巡回し生産組合の事情を良く知る、JAあさひな生産資材課の関根学だ。

曲がりねぎは毎年、畑を変えて栽培すれば、大豆の連作を回避できる。出荷も冬の12月から。何よりJAが特産化を目指して栽培者を募り、万全の指導体制が整っていた。関根は営農指導員と栽培体系や収支状況を提示。それで生産組合も35aの栽培を決めた。

平成25年3月に初めて播種し、5月に苗を定植。防除や土よせを経て、11月に軟白部に曲がりをつけるため一度抜き取り角度をつけて植え直す「やとい」と呼ばれる作業をした後、12月に出荷を始めた。

この間、7、9月には生産組合のメンバーがJAねぎ部会の

栽培講習会と現地検討会に参加。組合の畑には、関根だけでなく、営農指導員が定期的に訪ねて生育状況を確認し、栽培指導してきた。

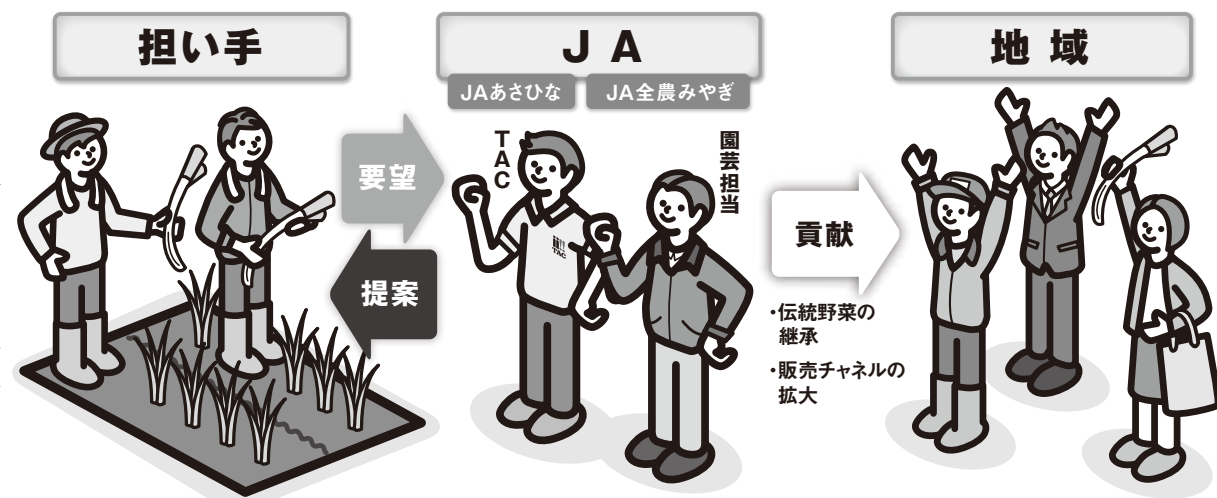
悩みの解決に選択肢を与えたい

「TACの役目は、担い手の悩みに解決の選択肢を与えることだ」と、関根は言う。また「それには(営農指導や生産資材の提供、販売など)JA内部での連携が不可欠で、自分はその潤滑油となっていければ」と続ける。

1月下旬、生産組合の曲がりねぎは出荷のピークを迎え

た。昨秋に台風の被害を受け、思い通りの生育ではないが、毎日4～5人が出て出荷作業をする。JAを通じて市場に出荷する他、地域の直売所や社員食堂にも販路を持つ。

関根の今回の提案が、個人農家だけでなく集落営農組織が曲がりねぎを栽培する道を拓いた。生産組合長の早坂も「関根くんは若い分、何をするにも先入観がないので、率直に話ができる」と信頼している。関根は語る。「地域の人に伝統野菜の『曲がりねぎ』を知ってもらい、多くの人に食べてもらいたい」。地域の伝統がまたひとつ継承されていく。



第8回JAグループ
国産農畜産物商談会

2014年3月12日(水)10:00～17:00／13日(木)10:00～16:00
東京国際フォーラム展示ホール 主催 JA全農／JAバンク／JA全中



TAC(タック)とは、『地域農業の担い手に出向くJA担当者』の愛称です。

TACの役割

- ①地域農業の担い手に訪問してご意見・ご要望をうかがい、誠実にお応えします。
- ②地域農業の担い手の経営に役立つ各種情報をお届けします。
- ③地域農業の担い手のご意見を持ち帰り、JAグループの業務改善につなげます。

TACの由来

Team for Agricultural Coordination
JAグループが一体となって
地域農業をコーディネートします。

営農販売企画部 TAC推進課
TEL:03-6271-8276
www.zennoh.or.jp

全農